

# 介護現場から報告された不理解語彙の使用度・重要度の特徴

## —仙台市方言の場合—

山田はるか(東北大学大学院生)

### 1. 介護現場における方言の課題

- ・医療・介護場面において、社会的要因による方言のコミュニケーション・ギャップの問題がある（日高，2007）
- ・診察時に方言が理解できないという事例 例：「ボノゴカラ ヘナガ イデ」（今村，2011）
- ・弘前市の介護場面の不理解の調査：約半数が「あった」（今村・岩城，2020）
- ・仙台市の介護場面の不理解の調査：6割以上が「あった」（山田，2023）
- ・介護現場で必要とされる語の範囲は医療現場とは異なる（今村・岩城，2020）。しかし、介護分野における不理解語彙を解明する研究は少なく、方言理解支援ツール（各対象者に必要な方言について解説したツール）も少ない。
- ・本研究の目的：どの地域でも方言支援ツールを作成できるようにするために、介護現場に必要な語彙を明らかにする。

### 2. 調査の目的

- ・介護現場において知っておいた方が良い方言語彙：医療現場よりも生活に近いので、生活に関する語が必要。（今村・岩城，2020）。仙台市でも同様の結果（山田，2023）。
- ・介護現場において理解できなければ支障の大きい語：①生命に関する語②健康に関する語③排せつに関する語④通常動作に関する語の4つに分類（山田，2023）
- ・しかし山田（2023）の調査結果には、以下の課題がある。
  - （1）自由記述のため、回答者の意識にのぼっている方言しか回答できない。
  - （2）「介護現場で理解できなければ問題が大きい語」の分類が主観的である。
- ・この課題を解決するため、2023年9月に選択式調査を行った。以降、山田（2023）における2022年仙台市の自由記述調査を「調査1」、本発表における2023年9月の選択式調査を「調査2」とする。
- ・調査2の目的：
  - 課題（1）を解決するために：調査1における回答者数の多い語について、実際の介護現場における使用頻度を確認。
  - 課題（2）を解決するために：理解できなければ問題が大きい語の4分類について、介護現場における認識との一致を確認。

### 3. 調査の方法

- ・概要：2023年9月、仙台市内の介護関係者133名を対象としたアンケート調査
- ・目的：2022年仙台市の自由記述調査（調査1）において回答者数に特徴のみられた語、重要だと思われる語について、実際の介護現場での使用度・理解度・重要度を調べる。
- ・提示した語：調査1で、回答者数が多い（大）・中程度（中）・少ない（小）語の中から2語ずつ、重要だと考えられる①生命、②健康、③排せつ、④通常動作の4分類の中から1語ずつの合計10語（表1）
- ・方法：災害時に必要な日本語の重要度・在住外国人の理解度を調査した山下（2013）を参考にした。
- 使用度：「介護現場で高齢者からどのくらいの頻度で聞くか」の質問に対し、「4.よく聞く」「3.たまに聞く」「2.あまり聞かない」「1.全く聞かない」の4段階評価
- 理解度：「意味を知っているか」の質問に対し、「知っている」「知らない」の2択を選択後、共通語訳を回答
- 重要度：各語の共通語訳を示した上で、「介護現場においてどのくらい重要か」の質問に対し、「4.大変重要である」「3.まあまあ重要である」「2.あまり重要ではない」「1.全く重要ではない」の4段階評価
- ・アンケート用紙における10語の提示方法：使用度・理解度（1枚目）、重要度（2枚目）

※2 枚目の共通語訳が理解度の結果に影響しないよう、2 枚目から1 枚目に戻らないように注意書きをした。

・予想：調査1 で回答者の多かった語は、使用度が高い。生命・健康・排せつ・通常動作の4 分類の語は、重要度が高い。

表1 調査2 において提示した語

語の選択の観点	語の分類	調査2 において提示した語	調査1 の回答者数
調査1 の回答者数の多さ	大 (多い語)	いずい (違和感がある)	50
		おしよすい (恥ずかしい)	24
	中 (中程度の語)	おっぴさん (曾祖父母)	10
		ジャス (ジャージ)	11
	小 (少ない語)	どんぶく (半纏)	1
		たまな (キャベツ)	1
調査1 において介護現場で理解できなければ問題が大きいと考えた語	生命に関わる語	のどばみ (のどに詰まらせること)	2
	健康に関わる語	はかほか (動悸・息切れしている様子)	3
	排せつに関わる語	おしっこつまる (小便がしたい)	5
	通常動作に関わる語	あおになる (仰向けになる)	1

#### 4. 本調査の結果

##### 4.1 結果の算出方法

・使用度・重要度：選択肢を点数化，平均を算出

例) 「4. よく聞く」→4 点, 「1. 全く重要ではない」→1 点

ある語の使用度=使用度の点数の合計/無回答を除く回答者数

・理解度：「知っている」選択人数から共通語訳を間違えている人数を差し引き，全体の割合を算出

例) ある語の意味を知っている人数=「知っている」を選択している人数-意味を間違えている人数

ある語の理解度=意味を知っている人数/無回答を除く回答者数×100

##### 4.2 結果と考察

・結果は表2 の通り。

・各語の介護現場における使用度，重要度，理解度の関係：おおむね一致。よく聞かれる語が重要であり，聞いていくうちに自然と覚えていくと考えられる。

・重要度が高い語：値が3 以上の「いずい」「おしっこつまる」「のどばみ」「はかほか」「おしよすい」。

・重要度と使用度の差が大きい語：使用頻度は高くないものの使用された際には理解する必要がある。値の差が1 以上の「のどばみ」と「あおになる」。しかし，理解度がその他重要度が3 以上の語に比べ低く，重要であるにもかかわらず意味をあまり知られていない。

・調査1 における回答者数との関係：「いずい」「おしよすい」など，調査1 において回答者数の多かった語は，介護現場での使用度が高い傾向がある。

##### 4.3 結論

目的(1) 調査1 において回答者数の多い語：使用度の高い傾向がある。

・調査1 において回答者数の多い以下の語は，介護現場でよく聞かれる可能性がある：いずい (違和感がある)，おしよすい (恥ずかしい)，こわい (疲れた状態である)，おだづもっこ (お調子者)，だから (だよ)，がおる (弱る)，いきなり (とて)，～だっちゃ (～だよ)，ジャス (ジャージ)，おっぴさん (曾祖父母)，ごしゃく (怒る)，ねっばす (くつつける)，おどけ (冗談)

表2 調査2 の結果

調査語	使用度	重要度	理解度
いずい	3.2	<b>3.4</b>	87.2%
おしよすい	2.5	<b>3.0</b>	69.9%
おっぴさん	2.1	2.4	55.6%
ジャス	1.5	1.9	66.2%
どんぶく	2.2	2.3	73.7%
たまな	1.3	1.8	18.8%
のどばみ	<b>1.9</b>	<b>3.3</b>	<b>42.1%</b>
はかほか	2.9	<b>3.6</b>	77.4%
おしっこつまる	3.1	<b>3.4</b>	87.2%
あおになる	<b>1.4</b>	<b>2.6</b>	<b>19.5%</b>

目的(2) 介護現場において重要な語: 「いずい」「おしっこつまる」「のどばみ」「はかほか」「おしよすい」「あおになる」の6語であり、これらの語が属する、利用者の①生命②健康③排せつ④通常動作⑤感情に関する語が重要であるといえることができる。

- ・①②③④は調査1(山田, 2023)で重要と考えた結果と一致した。
- ・⑤感情に関する語は予想以上に重要度が高い結果となった。これにより、介護現場で理解できなければ問題の大きい語に、⑤感情に関する語も加えることができる。
- ・①～⑤に類する語は重要だが、このうち介護現場で聞かれる頻度の低い語はあまり意味を知られておらず、特に注意が必要。

## 5. 東北地方の他地域における方言支援ツールとの比較

### 5.1 目的と比較対象

- ・目的: 仙台市の結果を他地域と比較し、介護分野の方言支援ツールに必要な語彙の一般化を図る。
- ・比較対象: ①・②による弘前市・津軽地方・山形県との比較
- ①介護士向けの方言理解支援ツール『介護学生のための三つの津軽ことば』(横浜, 2003), 『介護の山形ことば』(後藤, 2012)
- ②介護従事者への覚えておいた方がよい方言語彙の調査 今村・岩城(2020) 弘前市の調査結果
- ・比較方法: (1) 共通している語をみる (2) 語彙を意味分野ごとに分類し、各分野の比率をみる

### 5.2 比較の結果

(1) 他地域との比較において共通して現れている語

- ・介護現場において重要な5分類(調査2より)に該当する語
  - ・生命: 「脳卒中で倒れる」
  - ・健康: 「違和感がある」「疲れた」「冷たい」「まぶしい」「目がゴロゴロして痛い」「お腹がいっぱい」
  - ・排せつ: 「尿意がある」
  - ・通常動作: 「歩く」「座る」「寝ているときの姿勢を変える」「触る」「結びつける」
  - ・感情: 「困る」「心配」「うるさい」「恥ずかしい」「怒る」
- ・共通して現れている語の特徴: ・生命に関わる病名・利用者の健康に関わる感覚語・トイレに行きたいと訴える語彙
  - ・立ち歩き、寝ているときに向きを変える等の通常動作に関する語・物の扱いに関わる動作に関する語
  - ・マイナス感情を表す語彙。
    - ・身体語彙: 「目」「眉毛」「額」など顔に関する語, 「かかと」「ひざ」など足に関する語, 性器に関する語
    - ・親族語彙: 「私」, 「母」
    - ・生活語彙: 「キャベツ」, 「お汁」, 「鮭」などの身近で基本的な食べ物名称, 「冗談」, 「乞食」などの言葉
    - ・性向語彙: 「怠け者」「ろくでなし」など
    - ・程度語彙: 「とても」

- ・特に多い語: 顔や頭・足などの部位の身体語彙, 食べ物の名称

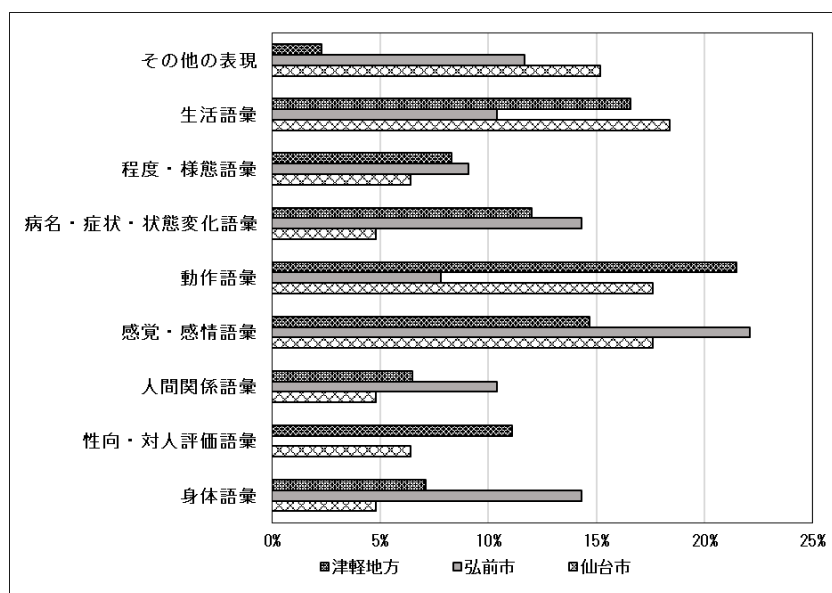
<理由>

身体語彙: 介助の場面で聞かれると考えられる。医療現場で診察の際に必要な語とは範囲が異なっている可能性がある。  
食べ物の名称: 食事を一緒に作ったり食べたりする場面で聞かれると考えられる。

(2) 語彙の各意味分野の比率の地域間比較

- ・比較対象地域: 弘前・仙台・津軽の3つの地域。  
(『介護の山形ことば』は会話形式であり主に音韻・文法項目が解説されていることから、比較対象からは外す。)
- ・分類方法: 弘前市は今村・岩城(2020)によるもの。仙台・津軽も今村・岩城(2020)に従い発表者が分類。
- ・分類結果: 図1の通り。
  - ・感覚・感情に関する語: 3地域で共通して多い。
  - ・生活に関する語: 3地域で一定数集まっている。
  - ・動作に関する語: 仙台・津軽で多い。
- ・地域間の比較から: 感覚・感情・動作に関する方言語彙が重要。  
生活に関する語彙まで方言理解支援ツールの範囲を広げる必要がある。

図1 意味分野の比率の地域間の比較



## 6. まとめと今後の課題

- ・介護現場で方言の解説が必要な語：特に重要な語は、次の表3のような語。表4のような語は、表3よりも重要性は低いものの比較的介護現場でよく聞かれると考えられる。
- ・今後の課題：比較地域の拡大。今回は東北地方のみのため、今後は方言特徴の全く異なる地域（広島市など）での調査を行い、比較したい。

表3 介護現場に特に必要な語彙

生命	・「脳卒中」などの病名に関わる語彙 ・「のどにつまる」など事故に関わる語彙
健康	・「疲れた」「息切れ」などの身体の状態変化にかかわる語彙 ・「冷たい」「まぶしい」など身体感覚に関わる語彙
排泄	・「尿意がある」など
感情	・「恥ずかしい」「怒る」「困る」などマイナス感情に関わる語彙
通常動作	・「歩く」「座る」「寝返りを打つ」などの介助に関わる語彙 ・「触る」「結ぶ」などの物の扱いに関わる語彙

表4 重要度はやや低いが、介護現場で聞かれる語彙

・「とても」などの程度語彙
・「キャベツ」「鮭」などの食べ物の名称に関わる語彙
・「目」「眉毛」など顔に関わる身体語彙、「かかと」「ひざ」など足に関わる身体語彙
・「私」「母」などの人称代名詞や親族語彙
・「怠け者」「ろくでなし」といった性向語彙
・「冗談」「乞食」などの言葉

## 参考文献

- 今村かほる (2011) 「医療と方言」『日本語学』30-2
- 今村かほる・岩城裕之 (2020) 「介護における方言の課題」小林隆・今村かほる編『実践方言学講座 第3巻 人間を支える方言』くろしお出版
- 後藤典子 (2012) 『聞いてわかる 介護の山形ことば』東北文教大学短期大学部
- 日高貢一郎 (2007) 「福祉社会と方言の役割」小林隆編『シリーズ方言学3 方言の機能』岩波書店
- 山下暁美 (2013) 「災害時の日本語—東北3県における在日外国人調査結果をもとに—」『東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究 (岩手県)』文化庁委託事業報告書
- 横浜礼子 (2003) 『介護学生のための三つの津軽ことば』路上社
- 山田はるか (2023) 「介護現場における方言不理解の問題—仙台市の場合—」日本方言研究会